

富山県

## (2)各地方公共団体で行われた実証事業の実施内容及び成果\_富山県

### 【A. 取り組みの全体像】

1.自治体の概要							
	自治体名		富山県	担当部局名	厚生部厚生企画課	人口	1,034,814 (人) <2020.10/国勢調査>
	自治体内連携	庁内連携部局 (メイン)	厚生部高齢福祉課、こども家庭室、健康課、障害福祉課		庁内連携部局 (メンバー)	教育委員会、知事政策局、生活環境文化部	
		庁内連携内容 ※会議体、情報共有	連携を想定している担当課へ個々に情報共有		庁内連携内容 ※会議体、情報共有	連携を想定している担当課へ個々に情報共有	

2.形成をめざす地方版連携PFの姿					
<b>従前の取り組み</b> <small>※重層の取り組み、外部組織連携、地域コミュニティ形成等</small>	<input type="checkbox"/> 自殺対策ポータルサイト「タッチハート」の運営 <input type="checkbox"/> 「こころの電話」相談の24時間・365日運営 <input type="checkbox"/> 市町村等における重層的支援体制構築に向けた支援 <input type="checkbox"/> ヤングケアラーの実態調査	<b>実現したい状態</b> <small>※構築する仕組み／支援対象の住民を取り巻く環境</small>	最終的なゴール	<input type="checkbox"/> 様々な分野の支援団体がつながりを構築し、 <b>支援者同士で情報共有・意見交換</b> できる環境 <input type="checkbox"/> 様々な分野の団体がPFに参画することで、参画団体同士が連携した新たな取組みが生まれ、 <b>孤独・孤立に陥っても声をあげやすい、かけやすい</b> 地域	
			今年度のゴール	<input type="checkbox"/> 様々な支援団体をつなぐ基盤となるPFの構築 <input type="checkbox"/> 官民の孤独・孤立に係る取組みや相談窓口を把握し、 <b>県HPに一元化</b> することにより県民へ周知	

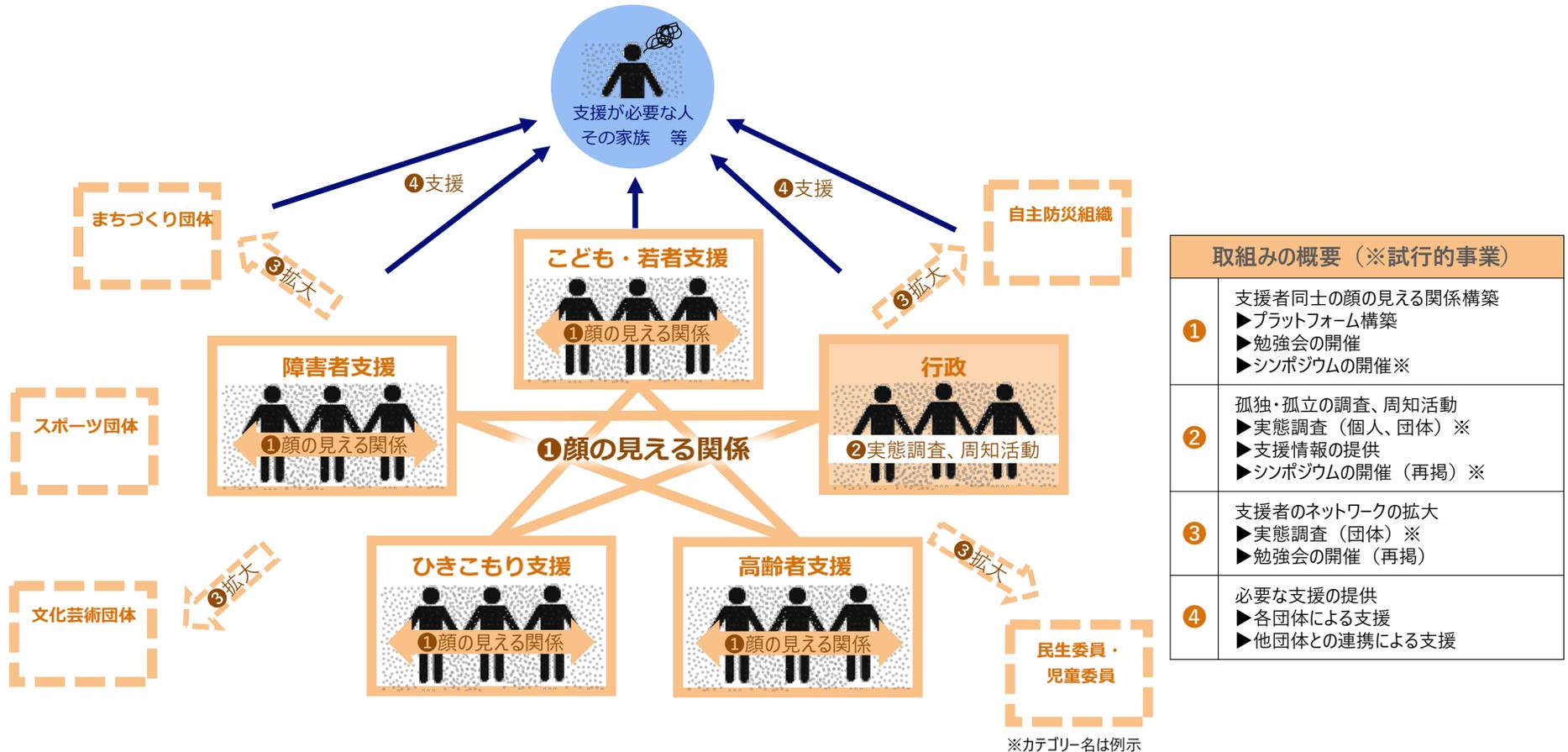
3.地方版連携PFの外部連携体制		
<b>地方版連携PF</b> <small>※各種団体が「水平的」「包摂的」に集う最も大きな枠組み</small>	参画メンバー	<ul style="list-style-type: none"> <li>NPO法人等の支援団体、孤独・孤立に関係する各分野の既存会議等の構成員、市町村等</li> </ul>
	選出・打診時の工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後実施するNPO等の活動調査の結果をもとに、孤独・孤立の分野に限らず、広くNPO法人等へ参画を呼びかける。</li> </ul>
<b>地域協議会</b> <small>※特に専門性の高い支援をおこなう団体等で構成</small>	参画メンバー	<ul style="list-style-type: none"> <li>未定</li> </ul>
	選出・打診時の工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>未定</li> </ul>

4.PF連携による価値や工夫_考え方	
<input type="checkbox"/> 孤独・孤立に陥っている方に対し、切れ目のない支援をつなげるため、 <b>勉強会等を通して支援団体同士の顔の見える関係づくり</b> を進め、連携強化を図る。	<input type="checkbox"/> <b>福祉以外の分野の団体にも参画を促し</b> 、地域の様々な団体が緩やかにつながることで、孤独・孤立に陥っている人は適切な支援団体につながるるとともに、 <b>孤独・孤立に陥らない予防的な観点</b> からも孤独・孤立対策を進めることができる基盤を構築する。 <input type="checkbox"/> <b>若者生きづらさ寄りそいネットワーク協議会、富山大学立瀬助教など、専門的な観点から助言をいただき</b> 、適宜相談しながらPF形成を進める。

## 【B.連携PFイメージ】

### 5. 連携プラットフォームのイメージ図

※主な関係者（自治体、連携先支援団体、住民等）、連携における取組内容、連携による提供価値等を記載



取組みの概要（※試行的事業）	
①	支援者同士の顔の見える関係構築 ▶プラットフォーム構築 ▶勉強会の開催 ▶シンポジウムの開催※
②	孤独・孤立の調査、周知活動 ▶実態調査（個人、団体）※ ▶支援情報の提供 ▶シンポジウムの開催（再掲）※
③	支援者のネットワークの拡大 ▶実態調査（団体）※ ▶勉強会の開催（再掲）
④	必要な支援の提供 ▶各団体による支援 ▶他団体との連携による支援

## (2)各地方公共団体で行われた実証事業の実施内容及び成果\_富山県

### 【C.試行的事業一覧】

#### 6. 本年度に取り組む試行的事業の概要

試行的事業の  
ポイント・工夫

□ 孤独・孤立問題の県民への認知拡大を図りつつ、既存の会議体構成員に加えて、PFに参画する新たな団体を発掘し、PF参画団体間の交流をも促進する。

事業名称	事業内容	目的／期待効果・KPI	実施時期	発注先（予算）
1 孤独・孤立に関する調査	<p>【調査対象及び調査対象者数】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>富山県に居住する16歳以上の個人 2,000人</li> <li>4地域（富山、高岡・射水、新川、砺波）×年代の割付が実際の富山県の人口分布と比例するように回収数を調整</li> </ul> <p>【調査事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>孤独に関する事項、孤立に関する事項、その他関連事項、属性事項</li> </ul> <p>【設問数】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>31問</li> </ul> <p>【調査方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>WEB形式で回答</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>4地域毎・年代毎の特徴を把握</li> <li>シンポジウムで当該調査結果を報告することで、住民への普及啓発に努める</li> </ul> <p>成果検証成果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>県内における孤独層の特定（男性40代、女性30代が孤独を感じていることが判明）</li> <li>孤独感が高い方は「相談しても無駄である（相談しても解決しない）」「相談すると相手の負担になる」「相談することは恥ずかしい」と感じている方が多い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>2023年10月</li> </ul>	<p>サーベイリサーチセンター（約400万円）</p>
2 NPO等における孤独・孤立にかかる取組み調査	<p>【調査対象及び調査対象者数】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>富山県内で活動するNPO法人、社会福祉法人、こども食堂、地域包括支援センター等約700団体に配布し、193団体から回答を回収</li> </ul> <p>【調査事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>活動内容、人とのつながりや孤独・孤立に関連する取組の有無、PFへの参画以降等</li> </ul> <p>【調査方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>郵送で調査票を配布し、郵送及びオンライン上で回答できるよう配慮 ※アンケートの設計にあたり、県内の孤独・孤立の取組に関連するNPO法人等へのプレヒアリングを行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>県内の孤独・孤立PFに関連する取組を実施する団体の把握、官民PFに参画意向のある団体等の発掘</li> </ul> <p>成果検証結果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>8割超が「孤独・孤立にかかる問題に取り組む必要性を感じる」と回答</li> <li>孤独・孤立対策に資する活動として約4割（119団体）が「居場所づくり」、約3割（85団体）が「相談窓口の設置」、約1割（36団体）がアウトリーチ支援を実施している</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>2023年11月～12月</li> </ul>	<p>JEC経営コンサルタント（約77万円）</p>
3 県民向け普及啓発イベント	<ul style="list-style-type: none"> <li>1,2の調査の結果報告</li> <li>大西参与による基調講演</li> <li>支援団体、学識、個人で活動されている方を招いたパネルディスカッション</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>富山県として孤独・孤立を重要かつ誰にでも起こりえる身近な社会課題と認識していることを普及啓発する</li> </ul> <p>成果検証結果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>会場参加者数57人（団体36人、一般21人）、オンライン申込者54人（団体35人、一般19人）でアンケート回答者の約9割が「満足」と回答</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>2024年2月21日</li> </ul>	<p>PCO（約300万円）</p>

#### 7. 次年度以降に向けた事業等の案

※PDCAサイクルに照らして次年度以降に取り組んでいく事業イメージ（あれば）を例挙

- NPO団体等との意見交換において支援団体間のつながりを強化する必要があることが分かったため、PF参画団体間の更なる交流促進を目的とした勉強会を開催予定

#### 8. 孤独・孤立対策を公表した際の反響

- 県民向け普及啓発イベント参加者からは、「孤独や孤立を防ぐための活動をする人たちのつながりも重要」や「様々な分野の人がつながり、同じ目線で考えることの大切さを改めて感じ、一見、接点のない分野の方々とも今後積極的につながってきたい」という意見があった。

## (2)各地方公共団体で行われた実証事業の実施内容及び成果\_富山県

### 【C.試行的事業】1. 孤独・孤立に関する調査

- 概要**
- 調査対象者：富山県内に居住する16歳以上の個人
  - 調査方法：WEBモニター調査
  - 調査期間：令和5年10月12日（木）～令和5年10月22日（日）
  - 回収数：2,000件
- 工夫点**
- 「支援先を選んだ理由」「支援を受けた結果どう感じたか」等の県独自の設問を追加し、今後の支援の在り方の参考になる回答を集められるよう工夫した
  - シンポジウムにて県民に調査結果を発表することで、孤独・孤立という課題の普及啓発と孤独を感じた際に相談や人に話すことの機運醸成を図った

- 調査事項**
- 孤独に関する事項（孤独感（直接/間接質問）、孤独の継続期間等）
  - 孤立に関する事項（外出頻度・目的、行動範囲、社会的交流等）
  - その他関連事項（困った時に頼れる人や相談相手の有無等）
  - 属性事項（年齢、性別、市町村、婚姻状況、同居人の有無・数等）
- ねらい**
- 4地域毎・年代毎の特徴を把握
  - シンポジウムで当該調査結果を報告することで、住民への普及啓発に努める

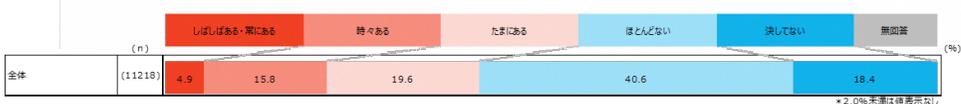
#### 年代別孤独・孤立の実態

- 男性の40歳代（11.8%）、女性の30歳代（15.3%）が最も孤独を感じる割合が高い。
- 男性では40・50歳代、女性では30・40歳代をピークに年代が上がるにつれて孤独感が低くなる傾向がうかがえる。

孤独感（直接質問）【性年代別】

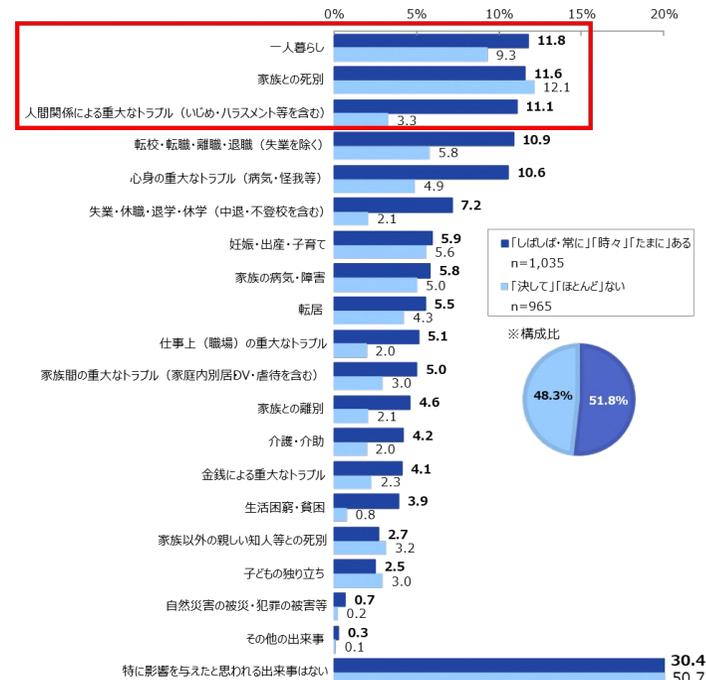


(参考) 【R4 全国調査】



#### 孤独感に影響を与えたと思う出来事※複数回答

- 孤独感が「しばしば・常に」「時々」「たまに」と回答した人では、「一人暮らし」11.8%、「家族との死別」11.6%、「人間関係の重大なトラブル（いじめ・ハラスメント等を含む）」11.1%などが高い。



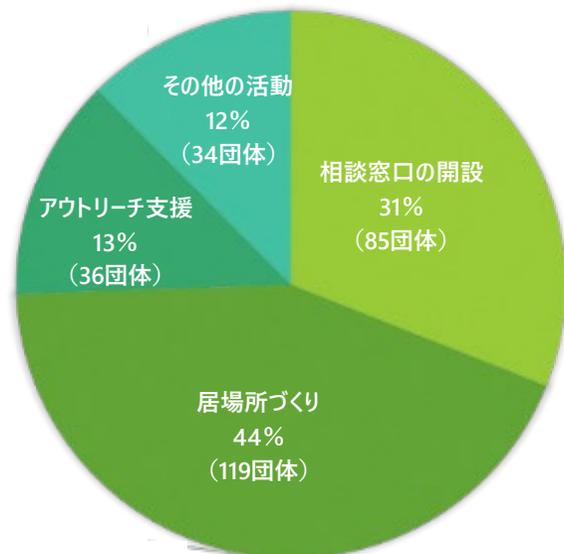
## (2)各地方公共団体で行われた実証事業の実施内容及び成果\_富山県

### 【C.試行的事業】2. NPO等における孤独・孤立にかかる取組み調査

概要	<ul style="list-style-type: none"><li>調査対象者：富山県内で活動するNPO法人、社会福祉法人、子ども食堂、地域包括支援センター等約700団体（回収193団体）</li><li>調査方法：郵送による配布、WEB併用回収</li><li>調査期間：2023年11月～2023年12月</li></ul>	調査事項	<ul style="list-style-type: none"><li>基本情報（活動内容、活動範囲、活動頻度等）</li><li>孤独・孤立に関する活動について（活動の有無や種類、支援ケース、取組の必要性等）</li><li>孤独・孤立PFに関する意向（県への期待）</li></ul>
工夫点	<ul style="list-style-type: none"><li>孤独・孤立に係る活動の説明として、「人とのつながり」という言葉を用いることで、文化芸術・スポーツ・まちづくり等の幅広い種別の団体の活動内容・意向を把握できるよう努めた</li><li>庁内各課から情報を集める、既知の支援団体に他の団体を紹介してもらうなどして、県内の多種多様な団体に調査を実施できるよう工夫した</li></ul>	ねらい	<ul style="list-style-type: none"><li>市内の孤独・孤立対策（人とのつながりを含む活動）に関連する取組を実施する団体の把握、官民PFに参画意向のある団体等の発掘</li></ul>

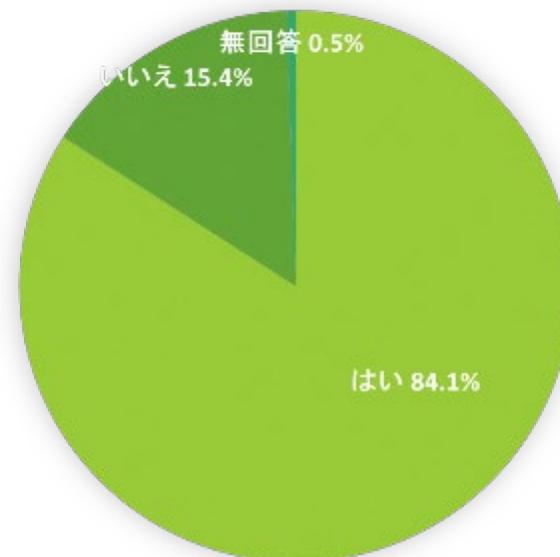
#### 孤独・孤立対策に資する活動の内容

- 孤独・孤立対策に資する活動として、約4割が「居場所づくり」、約3割が「相談窓口の設置」、約1割が「アウトリーチ支援」を実施している。



#### 孤独・孤立にかかる問題に取り組む必要性

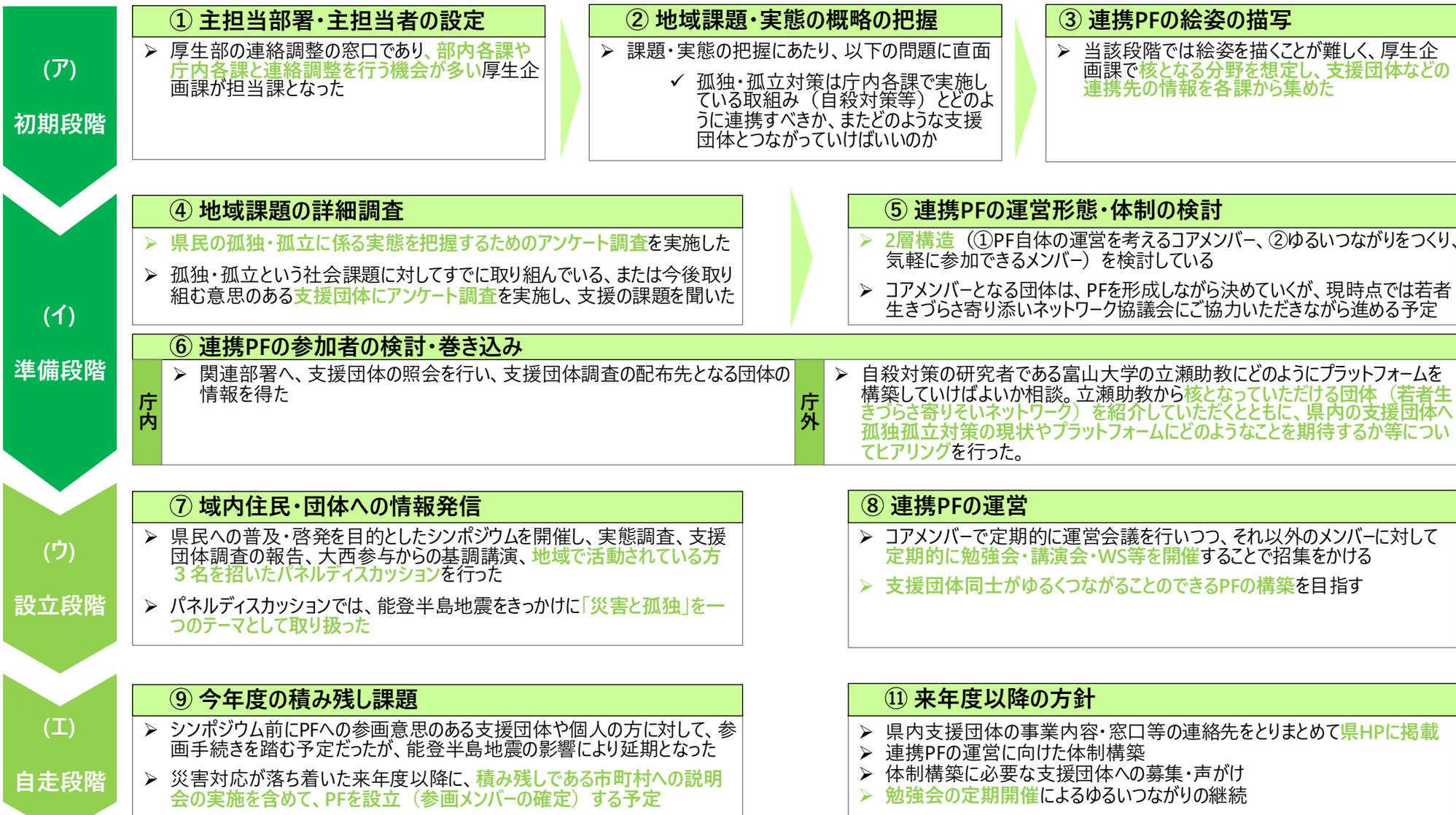
- 8割超が「孤独・孤立にかかる問題に取り組む必要性を感じる」と回答。





## (2)各地方公共団体で行われた実証事業の実施内容及び成果\_富山県

### 【D.留意点】



※今年度は、連携PFの設立準備期間であったため、⑦～⑩は、設立または自走段階に相当する内容を記載

## 【E.ブレイクスルー要因】

2023年8月

### 取り組み課題

- 福祉以外の観点の欠如
- 地域の団体の活動実態が把握できていない

2023年10～11月

### アクション／ブレイクスルー要因

- 庁内で孤独・孤立に関連しそうな支援団体の情報を集め、学識有識者（富山大学立瀬助教）や関連団体（若者生きづらさ寄りそいネットワーク協議会等）へのヒアリング・情報収集を行ったこと
  - ✓ 各ヒアリング先で、順々に次のヒアリング先を紹介いただくことで、支援団体・キーパーソンの輪を広げることができた
- 若者生きづらさ寄りそいネットワークのウェブサイト上で、当該分野において個人で活動されている方（古本なるや店主）を発見し、活動の経緯や課題をヒアリングしに行ったこと

2023年12月～

### その後の変化

- PF設立に向けて、声をかけるべき関係者がわかり、点と点がつながっていったことで、PFのメンバリングや在り方（方向性）が見えてきた
- 支援団体だけでなく、個人で活動している方も巻き込めるようなPFの構築を目指すようになった
- 能登半島地震という想定外の出来事がありながらも、シンポジウムを完遂することができた